

# 保健室登校は不登校生徒にとって有効な手段といえるのか。

3年5組13番 小松 瑞希

## 1. はじめに

私が中学生のときに精神的に疲れていた私をカウンセリングしてくれた保健室の先生と出会ってから、将来自分も人が持つ悩みをその人と一緒に軽くできるような人になりたいと思っていた。このことがきっかけで「人がもつ精神的な悩みはどうしたら上手に解消されていくのか」と疑問をもつようになっていた。そこでグローバル探究を通して「人間の悩みの出発点」について探究しようと考えた。ある記事によると人間が持つ悩み事は、すべて、対人関係が出発点になっていることがわかった。探究を進めていくにあたって、実現性がある提案をすることを第一に考えていく必要があると思っていたので、「人間の悩みの出発点」というものは範囲が広すぎると感じた。そこで、自分の身近な所から解決しようと思った時に思いついたのは保健室だった。保健室は怪我や風邪の生徒以外に精神的に悩んでいる生徒やクラスに登校できてない生徒が学校生活を送っている場所でもある。なので保健室登校に焦点をあてることにした。友達と過ごしている毎日の中で、友達に対して不満などを感じてそれがストレスとなって不登校になっている生徒もいるのではないかと考えた。調べた結果予想通りだった。また他にも家庭環境が原因というものもあるようだ。しかし、「保健室登校は家にも学校にも居場所がなく、不登校よりもつらい状況」という意見もあった。ここから私は、「保健室登校は不登校の生徒にとって本当に有効な手段なのか」という問いを立てて探究を行った。

## 2. 序論

キズキ共育塾によると、保健室登校とは「常時保健室にいるか、特定の授業には出席できても、学校にいる間は主として保健室にいる状態」のことをいう。そこで最初に立てた問いは「学校に行くのが不安と感じている人にとって保健室登校は有効な手段と言えるのか」だ。その問いに対して私は「保健室に頼りっぱなしになり、そこから抜け出せなくなるから有効な手段とはいえない」という仮説を立てた。この仮説を解決するために、複数の専門記事や、現場の教員へのインタビューを通じて研究を行った。また保健室登校に代わる支援の方法について述べていく。

## 3. 本論

最初に、学校に行くのが不安と感じている人にとって保健室登校は有効な手段と言えるのかを確認するため国際高校の保健室の先生に直接話を聞いた。その結果、主な保健室の先生の仕事として保健室だよりの制作、生徒対応、その日保健室に来た生徒の記録の打ち込みなど他にも仕事はたくさんあり、1人で全て対応しないといけないのでとにかく人手が必要だということがわかった。

海外事情に着目すると「アメリカなど海外には保健室がなく、スクールナースとカウンセラーが配置され心と身体のケアを別々に行っている」と書かれてあり、この方法なら日本の今の保健室の利用状況の現状を解決にと近づけると考えた。この海外の方法についてもどう思うか保健室の先生にきいたが、先生の経験から海外のカウンセラーはプロの方で保健室の先生より身近に感じることができず、相談しに行きづらそうに感じたそうだ。海外のカウンセラ

一制度やインタビューを聞いて、保健室は不登校生徒にとっての居場所となり精神的にも落ち着きやすい空間であると考えた。

そこで私は、学校に行くのに抵抗を感じてる生徒が精神的に落ち着ける保健室のような空間を学校につくることはできないかを考えた。そこで調べていると校内フリースクールF組が見つかった。このフリースクールF組は、愛知県の岡崎市教育委員会が岡崎市の中学校で行っている取り組みで、学校に行くのに抵抗を感じてる生徒にとっての居場所となり、授業にも参加できてとてもいい方法だと思った。この方法を現実的に考えるため、国際学校仕様に変えて保健室の先生に提案した。しかし、この方法は、高校で行うことは難しく効果的な手段とはいえないといわれた。その理由としてまず、小中学校と違って義務教育ではないこと。また、夜間学校や転学など別の方法があるからだそうだ。私は学校とは、授業を受けるだけではなくクラスメイトと授業を一緒に受けることが重要だと考えている。将来、集団を避けて生きていくことは難しいと思うからだ。しかし、それは保健室登校や別室登校の生徒からすると望まれてることではないことかもしれないが、私は高校生活を勿体ないのではないかと思った。また学校に登校しているのであればクラスでみんなと授業を受けてほしいという思いがあった。

そこで今度は、F組より規模を小さくした空間を作ればいいのかと考えた。このフリークラスの仕組みとして、集団生活が厳しいと先生やカウンセラーに判断された生徒が通えるクラスとなっていて、授業をmeetを使いクラスとつないで受ける場となっている。授業を間接的ではあるがクラスで受けてもらうことで集団生活に慣れることができ、クラス復帰に近づけるのではないかと考えた。

#### 4. 結論

このフリークラスのデメリットとして、保健室の先生の仕事量が以前と変わらず、増えてしまうかもしれないということと出席日数には入らないということだ。また、フリークラスにする教室がカウンセリングルームなのでそこの調整も必要となってくるとも思った。今の提案だけでは不登校の生徒にしか利点はなく、保健室の先生側からしたらあまり利点は無いと考えた。今後の活動としては、自分の提案を現実的に考え修正していこうと考えている。

#### 5. おわりに

探究に取り組む前、私は保健室登校の生徒がリラックスできるような居場所はつくれないのか。また精神的に悩んでいる人を少しでも楽にできる方法はないかと考えていた。探究に取り組む中で、私は保健室登校に焦点をあて探究してきたが、不登校の生徒や保健室登校をしている生徒が落ち着けるような場所をつくる方法と今の保健室の現状を解決するための方法を並行して考えなければならなかったことに苦労した。結果として、この両方の方法を完璧に取り入れた解決策は出すことはできなかった。しかしこの探究を通して、私は不登校になる前にその人を助けることはできないかと考えた。私は不登校の生徒に何かを直接して助けることはできない。しかし悩んでいる友達の相談にのることはできると思った。身近な人が不登校にならないためにも私は、悩みを抱える人への接し方についての知識をつけようと思った。そしてこれから先、相談に乗ることがあったらその人の心を軽くできるような言葉をかけられる人になりたいと思う。

## 6. 出典

yukiko, 「子育てママへのメッセージ」子育てコンパスより (投稿日2020年2月6日) <https://www.tdma2050.com/life-changing-reason-to-worry-adler/>

内田青子, 「保健室登校って何?～意味・効果、不登校との関係、教室復帰の方法～」キズキ教育塾より (投稿日2019年6月18日火曜日)

<https://kizuki.or.jp/blog/futoko/26548/>

「保健室の先生(養護教諭)が担う役割と連携したサポートの重要性」日本教育新聞より (投稿日2020年5月28日)

<https://www.kyoiku-press.com/post-216744/>

「全中学校の設置目指し、岡崎市が校内フリースクール「F組」を増やす訳」東洋経済education × ICT編集部より (投稿日2022年5月1日)

<https://toyokeizai.net/articles/-/583912>